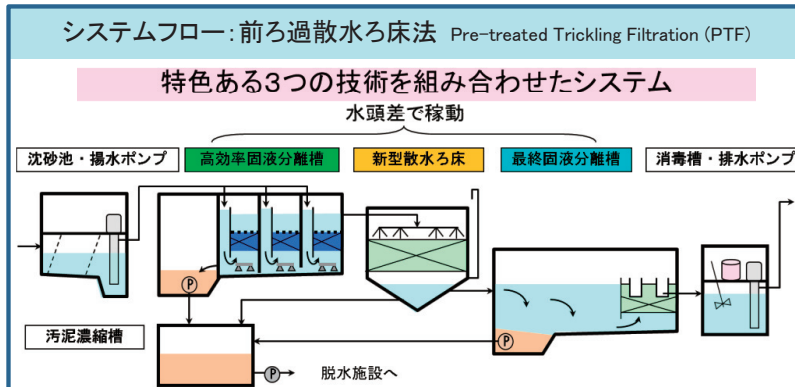


グローバル部門

先進的省エネ型下水処理システム （前ろ過散水ろ床法）の開発

メタウォーター株式会社



PRポイント！

経済発展が著しい新興国においては、都市部の人口集中や産業の急速な発展により、大気汚染や水質汚濁などが共通の課題となっていると共に、下水道未整備地域が多く、水処理に関する熟練技術者も不足しています。このような背景の中、メタウォーター(株)は、ベトナム国において新たな下水処理システムを開発しました。本システムは、既存処理法（標準活性汚泥法、SBR法、OD法等）に代わる低コスト・省エネ型の極めて低LCCで且つ維持管理が容易な下水処理システムです。実証試験は、北九州市立大学や現地の大学の協力を得ながら実施され、公的機関である日本下水道事業団の「海外向け技術確認」制度により、本システムは第1号の技術確認を取得しました。

この結果、日本で蓄積した水処理技術の経験をもとに開発した本システム（本邦技術）が、グローバルに水環境の改善に貢献する現実的な手段であることが示されました。

Key Person



北九州市立大学 教授 安井 英奇

民間技術者の数と質が十分でないベトナムでは、排水処理のエンジニアリングを大学が受け持つことが一般的です。そのため、現地の大学は地域と国の発展に直接的に関わることが強く期待されています。一方で、ベトナムに限らず、新興国の大学ではこれらの実務に主眼を置いた教育研究が目立ち、先進国の大学で重視する学問の基礎づくり（原理と真理の探究、環境保全の哲学など）がやや軽い印象を当初に受けました。本開発はこの点も考慮し、将来のわが国への導入も想定しながら、合理的な都市基盤をまずは新興の地に建設するべく、わが国の企業・大学とベトナムの大学・自治体によって一体的に進められたものです。これによって、実務の追求と学問の深化を両立させる教育研究の協力も日本とベトナムの大学間で形成されつつあります。今後は、本システムの社会実装を通して、お互いの国の発展に寄与する人材を産官学で育成していくことも大切なミッションの一つになると考えています。